



(前列左から)中村さん、松川さん、藤澤さん
(後列左から)石橋さん、横井さん、川村教諭

全国大会目指して、がんばるぞ!!

勝山南高等学校演劇部

- 松川咲緒里さん (18) = 旭町2丁目 =
- 横井 正昭さん (18) = 北郷町坂東島 =
- 藤澤 僚さん (17) = 元町2丁目 =
- 石橋 諒一さん (16) = 元町1丁目 =
- 中村 汐歩さん (16) = 荒土町細野 =

県内16校の高校演劇部が参加して行われた県高校演劇祭で、勝山南高等学校演劇部(松川咲緒里部長)が金賞を受賞しました。同演劇部は、川村信治教諭の指導のもとで、昨年に続いての金賞を受賞し、2連覇を果たしました。

「友情」をテーマとした内容です。笑いと涙を誘う感動物語に、審査員からは、「テンポがよく、間合いも上手で、日頃の練習の成果が出ていて、一生懸命さが十分伝わった」との評価を受けました。

演劇祭会場では、手をたたき笑って観客も最後には涙を流すなど、大いに盛り上がったとのこと。

部員のみなさんから、「富山で行われる中部大会には、さらに劇に磨きをかけ、ぜひとも全国大会に出場したい」と力強い誓いがありました。

子ども議会

「野向っこ遊歩道の歌」

- 野向小学校
前野健太さん (10)、大平悠太さん (12)、
橋爪志織さん (11)、荒谷道江さん (12)、
山内美里さん (12)、山口桃佳さん (10)

野向小学校(島田さよ子校長)では、8月に開催された子ども議会で、山内美里さんが議員となって、野向っこ遊歩道の遊具などを熊から守ってほしいと訴え、「野向っこ遊歩道の歌」を発表しました。

太さんと前野健太さんから提案がありました。

作詞は、みんなで野向っこ遊歩道で造ったターザンロープやハンモック、すべり台に対する思いを歌詞に込めて作りました。

また、教育用ソフト「ハイパーキューブ」を利用して、一つ一つ音符を並べ、みんなで曲を確認しながら作曲し

出会い ふれあい

すてきに人生



近年、農業や遺伝子組み換えによる食物の人体への影響に関心が高まる中、安全で安心な地元産の食物を食べる「地産地消」の取り組みが進んでいます。

この「地産地消」の取り組みの一つとして、新鮮で安心できる野菜類を学校給食に利用してもらおうと地元産者グループが活躍しており、下川さんは、夫婦で活動される市内の小学校に納入しています。

取材当日、下川さんの畑では成器西小学校の児童による、ミディマトや唐辛子の作り方の勉強や、さといもの収穫体験が行われていました。うまく掘り起こせない児童には、下川さんが夫婦が手ほどきをしてい

子どもたちに食育を進める

下川勇一さん(57)、美千子さん(55) 野向町聖丸

下川さんは、5人のお子さんを持ち、約8年前に大工さんの仕事を辞めて、農業に専念することになりました。その理由は、「先祖の田んぼを守りたかったし、ものづくりが大好きだから」と語る下川さんの表情に信念を貫く人の厳しさを感じました。

「作物づくりは、天候に左右されて本当に大変。そして、常に品質を高めたいという思いから、満足することがありません。作物づくりに横着はダメ。愛情を込めて作れば、それに応えてくれる。」と下川さんのものづくりへの姿勢を見聞きし、心改まる思いでした。

ました。

「野向っこ遊歩道の歌」の作詞作曲には、夏休み期間中もみんなで集まるなど、かなりの時間をかけたそうです。でき上がった曲を聴いたときの感動は大きかったと口をそろえます。

また、みんなで力をあわせて作った喜びや、作る前に想像した以上の曲のできばえに対する驚きなど、「野向っこ遊歩道の歌」づくりを通して得たものは、6人の児童たちにとっては何物にも替えがたい宝物となったようです。

指導にあたった石田教諭も、そんな彼らをたのもしそうに、目を細めて見

つめていました。

この「野向っこ遊歩道の歌」は、「いきいき集会」という野向小学校の児童集でも発表し、全校の児童が歌ったり練習したりしました。

今後は、「全校集会のテーマソングにしよう」や「野向町の人たちにも広めて歌ってもらおう」、「卒業タイムカプセルに入れて残したい」など、児童6人の夢が広がっています。



「野向っこ遊歩道の歌」を作詞作曲した野向小学校のみなさん
(前列左から)大平さん、前野さん
(後列左から)荒谷さん、山内さん、橋爪さん、山口さん

絵を描くのが大好き!

松田 茉奈さん(8)
平泉寺町平泉寺



松田さんは、県小中学生写生画コンクールで県内小中学生から約35,000点の応募があった中から、見事、知事賞に輝きました。

松田さんの絵は、工事現場で働く人や工事の様子を画面全体に大きく描いた力強い作品で、絵の中では、たばこを吸って一服する人や一生懸命に砂利をすくう人などが描かれていて、見ているだけでとても楽しい気分になります。

この絵で特に苦労した点を聞いたところ「砂利をていねいに細かく描いたり、ショベルカーを描くところがたいへんでした」とのこと。

家では、お父さんが描いてくれた絵をお手本に絵を描いたり、本を読みその物語を想像しながら絵を描いたりもするそうです。

にっこりと微笑む顔がとてもすてきな松田さん。これからも笑顔と同じくらいすてきな絵をたくさん描いてくださいね。